



つべつ

第108号

社協だより

編集 社会福祉法人 津別町社会福祉協議会 令和6年7月1日発行
<https://tsubetsu-shakyo.or.jp/>
<https://www.facebook.com/tsubetsushakyo/>

津別小2年生 × 社協あぐりボランティア じゃがいもの種いも植え をしました

いも植え
スタート!!



いもに土を
かけて




土を固めて
完成!



じゃがいもを持って
“じゃがいも顔”でハイ・チーズ

6月6日 社協あぐりの畑で津別小学校2年生の生活科「やさいをそだてる」の授業で、じゃがいもの種いも植えをしました。土にまみれながら種いもを植えた子どもたち。秋にはたくさんじゃがいもが収穫できるかな??

 この社協だよりは、共同募金の配分金を活用しています。

令和5年度事業と決算の報告

令和5年度も、町民の皆さまから会費・寄付金・ボランティア支援などたくさんの善意をいただき、事業を展開してまいりました。令和5年度の事業報告と収支決算が6月21日の評議員会において、次のとおり承認されました。

I 事業報告の概要

令和5年度津別町社会福祉協議会の活動は、「第2期地域福祉計画・第5期地域福祉実践計画（令和2年度～令和6年度）」の4年次の取り組みを基に推進してきました。

5月に、新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に位置付けられましたが、コロナとは今後も長く付き合うこととなります。地域では、感染症に適応した生活に変わってきています。このコロナ禍の約3年間で、廃用症候群から日常生活自立度が低下した方も増えましたが、今、地域サロンをみると、人数の変化はありますが、会話し、笑って楽しく参加している姿をみると、人との交流や繋がりは、とても大事なことだとみなさん実感していますし、3年ぶりに開催したサロン交流会は100名ほどの参加者で盛大なものとなりました。

さて、津別町の人口（令和6年3月31日現在）は、4,038人 高齢化率45.89%となり、令和5年度末に比べると人口は104人の減少で高齢化率は0.02%の増となりました。国立社会保障・人口問題研究所2023年推計では、津別町の人口は令和7年3,867人、令和17年2,934人と推計され、この人口の半数が65歳以上となります。令和6年度からの第9期津別町介護保険事業計画では、人口減で高齢者数も減少しますが、要介護認定者数は変化が少なく見込まれています。認定者数は変わらないとなると介護サービス（訪問介護）の利用者数も変化が少なく在宅生活にはサービスの維持が必要となり、ますます地域力、地域での支え合いが町を形成するには必要なことになっていきます。福祉計画で基本理念としている「助け合い見守りで安心して住み続けられるまちつべつ」を目指すためには必要なこととなります。今年度は、「おつきさま事業 ～おっ！ つべつで きんかい さがして まちづくり～」で住民同士の支え合い活動の継続・発展させていくため地域の強み、活動、資源を発掘していく事業に取り組みましたが、まだまだ金塊（優しさ・お宝）探しは、続きます。地域の金塊を探して今後も取り組みを進めていきます。

また、高齢者の単身世帯の割合は増加し、家族がいない、疎遠であったり関係が悪いなど、家族や親族に頼れない高齢者の増加が予測され、こうした単身化が進行することで孤独・孤立の問題が広がります。人口減では地域の担い手不足も課題になってきています。長年にわたって地域のつながりづくりに取り組んできている社協は、社会変化に対応しながらも、自分の意思により参加したいと思えるような多様なコミュニティづくりが必要と考えています。令和3年度から取り組んでいる「重層的支援体制整備事業」は、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援ですが、この事業は地域づくりの一翼を担うものです。3年が経過しますが、毎年模索しながら取り組みを進めています。

今年度も、手をつなぐ育成会等との事業「豆のわプロジェクト会議」の活動はありませんでしたが、地域住民や障がい者がともに活動を通し繋がり合う事業は、継続していきます。

以下、具体的総括は、重点項目から報告します。

II 重点項目

1 重層的支援体制整備事業実施による包括的相談支援体制の充実

- (1) 重層的支援体制整備事業の中心的事業者としての活動
- (2) 相談支援包括化推進の役割と機能
- (3) 身近な福祉相談所ぽっと
- (4) ひきこもり者等社会的孤立者への支援
- (5) 権利擁護に関する取り組みの充実

2 地域の支え合い活動の推進

- (1) 自治会内における地域支え合い活動の取り組み
- (2) 介護予防いきいきポイント事業の推進

3 生活支援サービスの充実

- (1) 生活支援サポート事業の推進とコーディネーターの取り組み
- (2) 認知症の人と家族の支援など認知症地域支援推進員の活動
- (3) 福祉有償運送事業（移送サービス）の実施
- (4) 既存の福祉サービス事業等の充実

4 災害救援活動におけるボランティアセンターの運営

5 町内の社会福祉法人や介護・福祉事業所との連携強化

6 社会福祉協議会事務局活動の充実

- (1) 社会福祉協議会財政基盤の確立
- (2) 広報活動の充実
- (3) 事務局体制の整備

【実施した主な事業・サービス】

◆あんしん生活サポートセンターの運営 ◆いきいきサロン活動の推進 ◆介護予防いきいきポイント事業 ◆相談支援包括化推進事業 ◆多機関協働推進事業 ◆アウトリーチ継続支援事業 ◆地域づくり事業 ◆参加支援事業 ◆生活支援体制整備事業 ◆生活支援サポート事業 ◆認知症地域支援・ケア向上事業 ◆福祉有償運送事業 ◆命のバトン配布事業 ◆給食サービス ◆介護器具の貸し出し ◆ふれあい郵便 ◆広報活動の推進 ◆ボランティア活動の推進 ◆あんしん電話の助成 ◆地域老人懇談会への助成事業 ◆津別町老人クラブ連合会事務局の運営 ◆福祉資金貸付事業 ◆訪問介護 ◆訪問入浴介護 ◆障がい者の支援

◆令和5年度 地域福祉推進事業会計決算

科 目	決 算 額 (円)	説 明
収 入 合 計	58,062,989	会費・寄附金・補助金・繰越金等
支 出 合 計	56,139,609	人件費・事業費・事務費等
収入 - 支出	1,923,380	次年度へ繰越

◆令和5年度 介護事業会計決算

科 目	決 算 額 (円)	説 明
収 入 合 計	32,647,911	介護保険収入・受託金・繰越金等
支 出 合 計	21,375,983	人件費・事業費・事務費等
収入 - 支出	11,271,928	次年度へ繰越

◆令和5年度 福祉資金貸付事業会計決算

科 目	決 算 額 (円)	説 明
収 入 合 計	1,986,673	償還金収入・繰越金等
支 出 合 計	510,055	貸付金等
収入 - 支出	1,476,618	次年度へ繰越

ふれあい・いきいき サロン事業

参加してみませんか？

社会福祉協議会では、支え合いのまちづくりとして地域で集まり交流する月1回のサロン活動を応援しており、現在14ヶ所で開催されています。身近な地域で集まり、レクリエーションやおしゃべりなど、笑顔あふれる元気いっぱいな姿が見られる素敵なサロン活動です。お花も見ごろのこの時期には、バス旅行の計画をする地域も多く楽しさが伝わってきます。

幸町ふれあいサロン 開所！！

5月8日（水）町内14ヶ所目となる「幸町ふれあいサロン」が開所となりました。社協山田会長より、無理なく元気に活動してもらいたいとお祝いの言葉をいただき、「オカリナPOPO☆ロン」によるお祝いの演奏で華々しいスタートとなりました。



遊び方の説明にも
うかがえます

活動の様子*



レクリエーション用具貸出

○玉入れ



○輪投げ



○バグゴ



○モルック



詳しくはお問い合わせください☆

**町民
対象**

津別町防災セミナー

過去の地震の教訓から “今から” できる備えを考える

令和6年3月13日 町民対象に厚真町社会福祉協議会 事務局長 山野下誠氏を講師に迎え、平成30年9月の胆振東部地震の体験、復興をもとに、今からできる防災の備えについて講演いただきました。

山野下氏は、地震発生直後に災害ボランティアセンターを開設、2年半にわたり被災地支援に携わっており、その経験から平時からのコミュニケーションや地域のネットワークの力の必要性について話がありました。

また、被災地側が被災地として何が必要か、しっかりと「助けてほしいこと」を発信する「受援力」を高めることが大切なこと、また被災者も必要な支援を受け入れることが大切なことについて話がありました。災害の備えは物資だけでないこと、日頃からできる災害の備えについて改めて考える機会となりました。



**職員
対象**

津別町・津別町社会福祉協議会合同研修会

平時からできる災害の備え、そして実際の災害支援とは

令和6年3月26日 津別町と津別町社会福祉協議会の職員を対象に、千葉県にあるオフィス園崎代表 園崎秀治氏を講師に防災についての研修会を開催しました。

講師の園崎氏は、令和3年に全国各地の防災・減災活動、被災地支援に貢献するために27年務めた全国社会福祉協議会から独立し、「被災者中心・地元主体・協働」の被災地支援の3原則を旨とするオフィス園崎を設立し、全国で活動をされています。

園崎氏から、行政、社協、災害ボランティアセンターの役割について、そして災害ボランティアセンターの情報発信に視点と重要性や、今年1月1日にあった能登半島地震の被災や支援の状況など、実際の災害をイメージした講演をしていただきました。

今回の能登半島地震のように、大規模災害が起こると行政、社協などの職員も被災者になりながらの支援をしていくことから、被災後職員が心身ともにバーンアウトすることがない支援や、外部からの支援を受け入れる「受援力」の重要性、被災者の真のニーズにあった支援が被災者に届くことが復興のスピードを上げることに繋がることが学びました。



介護予防いきいきポイント事業

ボランティア

募集!!



現在 140 名のボランティアの登録があり、約 70 名近くが活動しています。

地域サロン、社協めぐり（農園）、給食サービス、介護施設の夏祭りの手伝い、認知症お帰りの模擬訓練、絵手紙、読み聞かせなどで活動しています。

まだ、感染症に気配りしながらの活動ですが、ボランティア活動を広げていきませんか。みなさんのちょっと空いた時間にボランティア活動に参加しませんか。やってみたい活動が見つかるかもしれませんよ。



問合せ先：津別町社会福祉協議会 電話：76-1161
小野・四條（旧姓 寺尾）

ボランティア 輝く人

No.36

メンバーも変わり、現在7名で活動しています。時々メンバーの助っ人も訪れて静かさと賑やかさもある中で、月に1度、絵手紙制作に集まっています。

絵手紙は、80歳以上の1人暮らしに届けていますが、「きれいだね、取ってあるよ、飾っているよ」の声が届き元気をもらっていますとのこと。



「この絵手紙は、同じ図案をみんなで塗っているの、味わい深い本来のものとはちょっと違うんですよ。」と話を聞かせてくれました。

「スケッチとは違って筆を立て、たらしで書く。そのにじみが出て個性ある線が出る。誰に贈るかをイメージして描きますが、枚数もありますから、ここでは、季節を皆さんに送る絵手紙としています。」

色を重ねるごとに出来上がっていく絵手紙は、味わい深いものに仕上がっていききました。今回は、初夏の訪れを告げるエゾカンゾウをお届けします。



絵手紙サークル



メモ

「輝く人」では、社協のボランティアに登録されている方を紹介しています。第36回は、絵手紙サークルで活躍しているみなさんに登場いただきました。

令和6年度の赤い羽根 ピンバッジデザイン決定!!



(左) 原田みのりさん (右) 津別町共同募金委員会 荒川会長

今年度で記念すべき10年目を迎える赤い羽根ピンバッジ。今年度は津別高校生にデザインを公募し、応募の中から元津別高校3年生の原田みのりさんのデザインに決まりました。「まる太くんを主役に大きくデザインしました。」とのこと。2月29日に津別高校の体育館で表彰式を行いました。5月にピンバッジが完成し、社会福祉協議会窓口、さんさん館や道の駅あいおい等に置いています。今年の夏祭りでも募金ブースの設置を予定していますので、是非とも見に来て下さい。他の募金グッズもありますので募金をお願いします。

※ピンバッジ募金については、500円以上の募金で1個お渡ししています。制作費を除いた金額が地域の福祉活動を応援する「赤い羽根共同募金」へ全額寄付される仕組みとなっております。



津別町共同募金委員会

心あたたまるご寄付ありがとうございました。

(令和6年3月16日から令和6年6月19日)

社会福祉協議会へ

◆香典返しを廃して

旭町 房田 彩香様 ・ 高台 畑山 繁明様 ・ 豊永 森谷 貞子様
 豊永 大松 強史様 ・ 達美 千葉 誠次様 ・ 緑町 熊谷 恵子様
 共和 嶋田 英作様 ・ 美都 藤原 容子様 ・ 活汲 中村 登代子様
 旭町 高橋 以明様 ・ 豊永 一條 武志様、一條 明様

◆物品寄付

津別ライオンズクラブ 使用済切手 4,489枚



指定寄付

- ◆旭町第1自治会へ 旭町 房田 彩香様
- ◆柏寿園老人クラブへ 豊永 森谷 貞子様
- ◆東町自治会へ 緑町 熊谷 恵子様
- ◆友楽園老人クラブへ 緑町 熊谷 恵子様
- ◆特別養護老人ホームいちいの園へ
旭町 高橋 以明様



金銭管理のこと
 成年後見のこと など
 ご相談下さい。

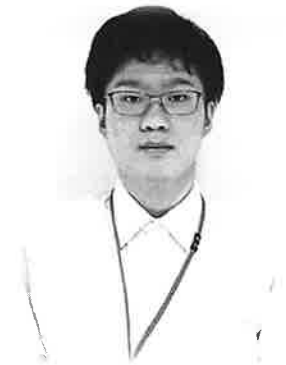


編集後記

最近、地震や大雨等の災害が多くなってきていると感じます。ニュースで流れるたびに気持ちが重くなる方もいるのではないのでしょうか。

大災害はいつ起きるかわかりません。「100年以内に起きる可能性がある」といわれれば来年の可能性もあるわけです。そう考えると日常から災害に備えることが大事となってきます。最近、防災に関する研修も昔より多くなってきました。町内でも地域の方に向けた研修を開催していきたいと考えています。 (K)

職員紹介



6月1日付で津別町社会福祉協議会に入職しました菅原 隆雅（すがわら りゅうが）といいます。富良野市の二つ隣にある上富良野町出身です。

私は新卒で、以前は「旭川市立大学 保健福祉学部 コミュニティ福祉学科」に在籍していました。そこで高齢者の地域での拠り所・居場所づくりをテーマとして研究をしておりました。社会福祉協議会では町民視点から物事を考え、高齢者の方々が安心して地域で暮らしていける地域福祉を目指したいと考えております。6月からは、給食サービスやサロンなどを担当しています。いち早く町民の方々に顔や名前を覚えて貰えるように努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。